

## 参考資料 - 2 特別調査 2 : 住まいミーティング実施報告

### 1 . 第 1 回住まいミーティング in 奥能登

項目	内容	
テーマ	古民家を活かした里づくり ~ 門前町浦上地区から ~	
目的	・古民家再生、里おこし、グリーンツーリズム等による都市との交流など、過疎地域における住まい・まちづくりのあり方と課題に関する意見交換	
日時	平成 16 年 12 月 18 日 (土) 13:30 ~ 18:30	
会場	門前町浦上地区あすなろ交流館(門前町字浦上 8-72)	
スケジュール	: 現地視察 (13:45 ~ 15:55) 浦上地区濁池集落 (農村・農家住宅視察) 門前地区總持寺周辺 (商店街・街なみ環境整備事業) 黒島地区黒島集落 (漁村・元北前船主住宅視察) まんだら村 (過去の交流・定住施設)	: ミーティング (16:00 ~ 18:30) 資料説明 資料 1 : 門前町の住宅事情と住文化 資料 2 : 浦上地区の里おこし活動 ディスカッション まとめと提言
参加者	・合計 25 名 (うち講師 2 名) ・講師 : 山崎寿一氏 (神戸大学工学部建設学科助教授) 寺崎信二 (石川県農林水産部中山間地振興総室指導係長)	
主な発言	・集落再編の本格的な検討段階がきている。限界集落への何らかの取り組みを望む。 ・地域の顔となる景観等を優先的に維持管理するなど地域資源を地元一丸で守ることが必要である。 ・活動主体は住民であり行政は支援に徹するべきだ。 ・活動を行う住民の人材が不足している。 ・定住を希望する人のための情報提供が重要である。 ・集落や古民家を人が住めるようにしても、若者の定住が期待できるのが疑問だ。 ・空家を地域のコミュニティセンター的に活用するといいいのではないか。 ・都会と田舎の二地域居住はこれからの新しい居住形態として捉えるべきだと思う。	



濁池集落・農家住宅の視察



總持寺周辺地区の視察



ミーティングの様子

## 2. 第2回住まいミーティング in 金沢

項目	内容	
テーマ	これからの居住福祉のあり方 ~ 中心市街地での高齢者の集住形態を考える ~	
目的	・ 中心市街地における高齢者の集住のあり方、居住福祉環境のあり方、誰もが安心して生活できる住まい・まちづくりのあり方に関する意見交換	
日時	平成 17 年 5 月 28 日 (土) 13:30 ~ 18:00	
会場	石川県文教会館 406 会議室(金沢市尾山町 10-5)	
スケジュール	: 現地視察 (13:30 ~ 15:35) 有料老人ホーム 「シティモンド金沢」 高齢者向け優良賃貸住宅 「グリーンソサエティ犀川」	: ミーティング (15:45 ~ 16:10) 講演: 「町家型街区構成で都市居住を再生」 事例報告 事例 1: ふれあいシニアハウスクラブの紹介 事例 2: コホラティブの実例を見てきました 事例 3: 高齢者向け賃貸住宅 four-leaf 辰口 事例 4: 福祉施策の紹介 ディスカッション
参加者	・ 合計 31 名 (うち講師 1 名、報告者 4 名) ・ 講師: 永山孝一氏 (金沢 建築とまちづくり研究所) ・ 報告者: 白崎良明氏 (ふれあいシニアハウスクラブ 幹事)、杉山真氏 (杉山真設計事務所)、三浦俊明氏 (タカラ不動産)、岡野昭久 (石川県長寿社会課)	
主な発言	・ 高齢者向けの賃貸住宅の整備は今後さらに重要になる。 ・ 保証人や年齢の問題から、民間借家は高齢者の入居を敬遠している状況がある。 ・ 高齢者の入居を拒否しない「高齢者円滑入居賃貸住宅」は県内で約 1,600 戸登録されているが、借り手には浸透していないので、より一層の周知が必要である。 ・ 高齢者向け賃貸住宅の供給を推進するため、市町の積極的な協力が必要である。 ・ 届出と立ち入り検査の義務から逃れるため、近年はあえて老人施設としての認定から外れる事例が増加している。 ・ 今後の親と子の住まい方は「同居」から「近居」になると思う。 ・ 高齢化してからの住まい方を想定して普段から生活していくことが必要である。 ・ 自分でメンテナンスできる程度の小さな家を終の棲家とするのがよいのではないか。	



シティモンド金沢の視察



グリーンソサエティ犀川の視察



ミーティングの様子

### 3. 第3回住まいミーティング in 加賀

項目	内容
テーマ	大聖寺の町屋再生を考える（加賀市主催のシンポジウムと共催）
目的	・ 伝統的市街地(大聖寺)における町屋再生のあり方、町屋を活用したまちなみ形成、地域興しに関する意見交換
日時	平成 18 年 3 月 4 日（土）13：00～16：00
会場	蘇梁館（加賀市熊坂町地内）
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>： 基調講演（13：05～14：40）</li> <li>○ 『城下町村上のまちづくり』～町屋の再生とお人形さまの町おこし～</li> <li>： 「町屋再生計画」策定報告（14：40～15：15）</li> <li>大聖寺における町屋の実態</li> <li>町屋の活用・再生に向けた今後の取り組み</li> <li>： パネルディスカッション（15：15～16：00）</li> <li>○ 「町屋を活かした大聖寺のまちづくり」</li> </ul>
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演者：吉川真嗣氏(味匠喜っ川専務取締役,村上町屋商人会会長他)</li> <li>・ パネラー：下口進氏(大聖寺観光協会会長)、瀬戸達氏(NPO法人歴町センター大聖寺事務局長)、菅村勉氏(加賀市町屋再生室長)</li> <li>・ コーディネーター：馬場先恵子氏（金沢学院大学助教授）</li> </ul>
主な発言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しいもの、近代化を否定するのではなく、古いもの(町屋や歴史的な街なみ)を活かして活性化させるという意識の転換を図り、まちづくりを行った。</li> <li>・ 町家を活かしたイベントにより、住民と観光の間にふれあいが生まれ、リピーターが何度もまちを訪れるようになった。</li> <li>・ イベントによる観光客とのふれあいが地元の高齢者にとっての生きがいとなった。</li> <li>・ まちづくりを通して住民が町家を再認識し、誇りに思うようになった。</li> <li>・ 加賀市には、町屋、街なみなどの素材が数多くあり、それらをうまく活かせば、まちづくりとして成功すると思う。町屋再生室が発足し、今後の町屋再生に期待する。</li> <li>・ 日本が失ったものは季節感や伝統的な行事だと思う。伝統行事、伝統文化、それらを大切にすることが重要と思う。</li> </ul>



吉川氏の基調講演



「町屋再生計画」策定報告



パネルディスカッションの様子